



櫻井陽司《ローソクと絵具》（写真作品 撮影／藤森武 原画／油彩）23x16cm
 櫻井陽司自刻印章「狂人」+藤森武署名



藤森武《地-4 坐》写真 署名 26x34cm

- 〔ご案内〕
- ・つくばエクスプレスつくば駅、水戸線岩瀬駅より真壁のひなまつり会場まで直通バスが運行されます
 - ・2／27（土）、28（日）の10：30～15：30は、会場中心部が歩行者天国になります
 - ・直通バスや駐車場など詳しくは、桜川市観光協会ホームページをご参照ください

桜川市という名が町村合併によって附された時、よい名だと思いました。その土地の歴史や文化を無視するような安易な市名が全国に散見される昨今ですが、桜川という名は、土地の人も忘れかけていた歴史や文化に想いを巡らせるきっかけにもなるのではないのでしょうか。

旧岩瀬町の鏡ヶ池を水源とする桜川は、旧大和村、真壁町を貫き霞ヶ浦に注ぎます。能を大成した世阿弥の謡曲「櫻川」は、この地が舞台です。古来、西の吉野、東の櫻川と謳われた山桜の名勝（国指定名勝）は、今も春になると山々に山桜が点在し、山桜独特の繊細かつ剛毅な姿を見せてくれます。

つねよりも春へになればさくら川波の花こそまなく
 よすらめ 紀貫之

もの狂い能の名曲といわれる「櫻川」は、子を探し続けて日向から常陸までたどり着いた母の狂気が、山桜の下、桜川で舞う美しくもかなしい物語です。常陸櫻川で山桜と共に再会する子の名は、櫻児（さくらこ）といいました。

「男体山、女体山（筑波山）の間に発する神奈備の川（男女「みなのか」川）が、桜川に入るとは、夢にも思わなかった私には、その水音は遠い夢の国からひびいて来るように聞こえた。・・桜川の花と、男女川に出会えたことは、私にとって無上の喜びであった」（白洲正子『行雲抄』桜川句ひ）。水戸偕楽園を流れる「桜川」は、水戸義公（光圀）が桜川の山桜に感銘を受け苗木を移植し桜川と命名しました。江戸時代には、今の皇居や隅田川等々、江戸各所に桜川の山桜が移植されました。

能は能面を付けることによって、真の個性があらわれるといわれます。近代思想を代表する哲学者ヘーゲルは、民族精神こそが真の個性であることを述べていますが、それぞれの時代を生きる個人という自我が、長い歴史の中の民族精神ともいべき能面を付けることによって、その葛藤（ある種の狂気とも云えるもの）の中に生まれる何ものかを示しているようです。「秘すれば花なり」と言った世阿弥は、真の個性とは何かを教えてくれているのではないのでしょうか。

常陸には、日本の民族精神を明らかにする歴史の数々が編まれています。『万葉集』に最も多く詠まれた山である筑波山麓の小田城では、北畠親房によって『神皇正統記』が著され、それは水戸藩の『大日本史』に繋がり、幕末維新に決定的な影響を与えました。幕末志士達や戦前日本の国民的英雄といえは楠木正成ですが、楠公の顕彰に重大な役割を果たしたのが光圀公でした（公は国学の濫觴にも深く関わっています）。世阿弥の祖母は楠公の妹であることを考え合わせるとき、能における民族精神の厚みと、常陸桜川という土地の奥行を一層感じます。（次頁へ続く）

桜川・真壁のひなまつり特別展（東京銀座・ギャルリさわらび 秘展 其ノ四）

〔画家 櫻井陽司 + 写真家 藤森武〕 企画／ギャルリさわらび 田中壽幸（桜川市生まれ）

日時／平成二八年二月二七日（土）～三月三日（木） 午前十一時～午後六時（初日は午後一時より）
 場所／桜川市・真壁伝承館 本館一階 （〒三〇〇―四四〇八 茨城県桜川市真壁町真壁一九八）
 入場無料 お気軽にご覧ください

【絵画】櫻井陽司 略歴

1915（大正4）年、新潟県柏崎市生まれ。独学で絵を学ぶ。46年、職場美術協議会結成。52年、麻生三郎・吉岡憲推薦素描頒布会。61年、歌誌「やまなみ」主催宇都宮展。64年、愛知県美術館にて駒井哲郎と二人展。75年、東京サエグサ画廊個展。82年、美術ジャーナル主催個展。85年、紙舗直個展。86年～アートロベ個展。2000年12月24日逝去。03年、ギャラリーさわらび個展（開廊記念）、以後10回。10年、東御市梅野記念絵画館「私の愛する一点展」出展、以後毎年。12年、櫻井研氏により「櫻井陽司会」設立。13年、東京芸術劇場「心のアート展」特別展示。15年、愛知県美術館木村定三コレクション展。ギャラリーアビアント及びギャラリーさわらびにて生誕100年展。

【写真】藤森武 略歴

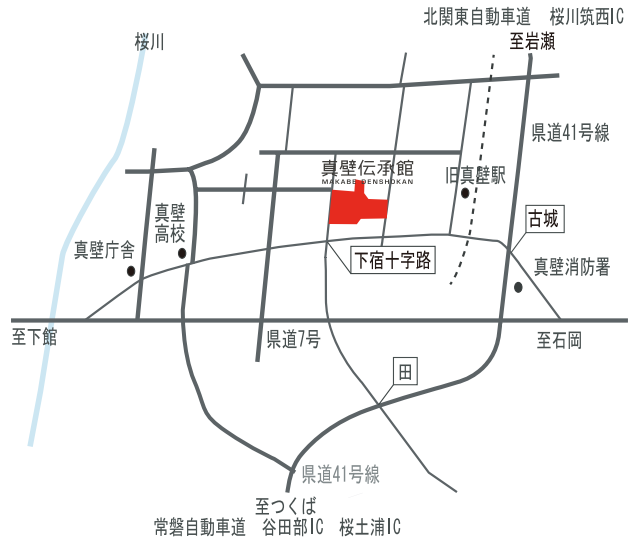
1942（昭和17）年、東京都世田谷区生まれ。東京写真短期大学（現東京工芸大学）卒。62年、写真家土門拳に師事。67年、凸版印刷写真部入社。70年からフリーランサーとなり、古美術や仏像等日本文化伝承をテーマに活動。全国の六十余館に及ぶ博物館の収蔵品撮影を継続中。写真集『独楽・熊谷守一の世界』（講談社）、『白洲正子・私の骨董』（求龍堂）、『国宝・重文の茶室』（世界文化社）、『白洲正子・器つれづれ』（世界文化社）、『土門拳・骨董の美学』（平凡社）、『鉦彫 荒彫 謎の木彫仏』（玉川大学出版部）、『五輪書』『武士道―サムライたちへ』『葉隠』（ピエ・ブックス）、他多数出版。「藤森武写真展 みちのくの仏像」が、現在東北5県巡回中。日本写真家協会会員、土門拳記念館理事。

【企画】田中壽幸 略歴

茨城県桜川市生まれ。京都造形芸術大学芸術学部歴史遺産コース卒。名も知らなかった画家（櫻井陽司）のデッサンとの出会いを機に、2003年、ギャラリーさわらび開廊。これまでの展覧会企画は、「生誕100年 櫻井陽司展」、「垂直の芳香 東千賀展」、「烽（とぶひ）憂国のアート、至誠のアート 彫刻家 佐々木誠」展など。

展覧会場/桜川市・真壁伝承館 本館1階

〒300-4408 茨城県桜川市真壁町真壁 198



主催/東京銀座・ギャラリーさわらび TEL. 050-3635-3001

真壁伝承館 本館 TEL. 0296-23-8521

前頁〔ご案内〕をご参照ください

（田中壽幸）

「秘すれば花」から名付けられました「秘展」は、十三年前に銀座にて第一回展があり、今回は四回目となります。桜川市・真壁伝承館は、平成二十四年、建築としては日本最高の賞である日本建築学会賞を受賞し、歴史と現代が融け合った「伝承」の名に相応しい魅力ある建築です。蔵の街として知られる真壁は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。真壁の雛祭り、土地の歴史や文化が現代に咲かせた「花」のように感じられます。その祭と共にこの展覧会が開催出来ることを有難く思います。

けになればうれしく思います。

「秘すれば花」から名付けられました「秘展」は、十三年前に銀座にて第一回展があり、今回は四回目となります。桜川市・真壁伝承館は、平成二十四年、建築としては日本最高の賞である日本建築学会賞を受賞し、歴史と現代が融け合った「伝承」の名に相応しい魅力ある建築です。蔵の街として知られる真壁は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。真壁の雛祭り、土地の歴史や文化が現代に咲かせた「花」のように感じられます。その祭と共にこの展覧会が開催出来ることを有難く思います。

な、しなやかな生命力を放っています。

「伝統とは水溜りのようなものでなく深い井戸のようなもので、過去の深く掘り下げた芸術と現在の深く掘り下げた芸術が地下水でつながる このつながりが伝統である」。そう語る櫻井陽司さんのデッサンとの出会いが、銀座でのギャラリーさわらび開廊のきっかけとなりました。櫻井さんの「深い井戸」の実践は、日本人の油絵の確立として現代に遺され、それは時を経て

「前頁より続く」
藤森武さんは現在、「藤森武写真展 みちのくの仏像」が東北五県巡回中で、日本の神としての仏像へのまなざしがあり、いわば仏像という面の奥に日本の民族精神を見、師である土門拳さんとは一線を画した仕事をされてきました。女性ではじめて能舞台に立った白洲正子さんとも、数多くの仕事を残されています。ギャラリーさわらびの展示に共感していただいた藤森さんによって、櫻井陽司さんの作品「眠れる母と子」は六十七年ぶりに私共の目に触れることとなりました。

（前頁より続く）



1



2



3



4



5



6

1 <<蝶>> 2 <<能面「逆髪」>> 3 <<太陽>> 4 <<春風の時>> 5 <<享保雛>> 6 <<眠れる母と子>> (1,3,6 櫻井陽司 2,4,5 藤森武)